

令和元年 6 月 7 日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名	アジアにおける節足動物媒介新興感染症制御手法構築のための総合研究
研究開発機関名	山口大学
研究開発代表者名	前田 健

当初の計画通り、アジア地域の未知および既知の節足動物媒介感染症の疫学調査において、各種ウイルスのベクターや各国の日本脳炎ウイルスの遺伝子型が異なることを確認し、土着性が高いことを明らかにしたことは医学的に極めて重要な知見である。さらに、フィリピン、タイ、インドネシアにおいて、現地に研究実施基盤を構築したことは高く評価できる。最終的に研究成果が 12 編の学術論文として発表され、研究開発期間を通じて、若手研究者の活発な人材交流も多く行われた。

一方、米国研究チームの貢献度が少なかった。今後は、得られた膨大な疫学調査結果を他の疫学研究結果と合わせ、総合的な感染症対策の提示を期待するとともに、タイ、フィリピンの他に共同研究を進めてきたベトナム、モンゴル、ネパールに範囲を広げて節足動物媒介症の調査が広がっていくことを期待する。研究結果の取り纏めの仕方については、表や図などを活用するなど、もう少し工夫が欲しい。

以上